

一般社団法人 日本鉄道技術協会

Japan Railway Engineers' Association

Since 1947



鉄道のトータルシステムを考え
常に前進しつづける JREA

ビジョン 総合的な鉄道技術に関する新しい協会の実現にむけて

1. 総合的な鉄道技術に関する新しい協会の実現

これまで当協会は鉄道に関する総合技術協会として、鉄道技術を構成する各要素技術の集合体を目指してきましたが、これからは“今社会は鉄道にどのような役割とサービスを求めているのか、そのために必要な鉄道技術者・技術とは何か”という視点を加えた協会活動を実現します。

2. 会員サービスの一層の充実

時代が要求する鉄道サービスを実現するための鉄道技術者が、質・数の両面から満たされるよう、当協会は会員各位の協力を得て、技術・技能を共有し、相互に研鑽できる場を作り、その結果を会員に還元することで会員サービスを一層充実させます。

3. 鉄道の安全・安定輸送に対する取り組み

当協会は、「より一層の安全・安定輸送を実現し、鉄道がより広く選択されることで社会に貢献する」ことを目的とした自主的な調査研究会を設置し、長期的に取り組んでいきます。

4. 技術革新に対応した事業活動と積極的な外部への発信

当協会は、従来の各要素技術が統合された鉄道システム技術に、急速に発展しつつある情報通信技術等のソフト的要素を加えた鉄道システム技術を活用した事業活動を展開し、その結果を積極的に社会に向けて発信していきます。

～ 創立60周年を期し、2006(平成18)年策定 ～

1 協会の概要

日本鉄道技術協会は、米国の例などを参考に、国鉄(当時は運輸省鉄道総局)の技術幹部の提唱により民鉄及び産業界を含めた全国の鉄道技術者が参集し、鉄道技術の発展と技術者の育成を通じて国内のみならず世界の鉄道文化に貢献することを大きな目標として1947(昭和22)年2月に設立され、同年8月、社団法人として認可された。その後、各技術系統別の鉄道協会が設立された後も、鉄道に関係する全ての分野が参加する日本で唯一の鉄道の総合技術に関する協会として活動しており、特に昨今、トータルシステムとしての鉄道技術の重要性が認識されつつある中で、2011(平成23)年4月の一般社団法人への移行を契機として、5,000名を超える正会員(個人会員)と約420団体の賛助会員(団体会員)、更には約210団体の特定部会会員(日本鉄道サイバネティクス協議会の団体会員)の協力を得て、一層の活動強化を期している。

2 目的 (当協会定款第1条)

「鉄道技術の進歩改善、鉄道技術に関する知識の普及及び鉄道技術者の技術の向上を促進し、支援することにより、鉄道の安全性と鉄道技術の向上を図り、もって鉄道事業の振興を通じて国民生活の安定向上と利益の増進に寄与することを目的とする。」

3 主な沿革

1947(昭和22)年 8月	1947(昭和22)年2月、全国の鉄道技術者が参集して設立、同年8月に社団法人として許可。会員に協会発行の「JREA ニュース」と協会監修の「交通技術」(交通協力会発行)を毎月配布。
1958(昭和33)年 4月	技術情報誌「JREA」を発刊し、前項に変えて会員に毎月配布。
1959(昭和34)年 7月	日本の鉄道技術を海外に紹介する技術情報誌「Japanese Railway Engineering」を発刊。
1962(昭和37)年 2月	「JREA」の年間優秀論文を表彰する「JREA 賞」を創設。
1963(昭和38)年 4月	日本鉄道サイバネティクス協議会が設立され、事務局を担当。
1966(昭和41)年 1月	朝日新聞文化賞(昭和39年度)を受賞した島秀雄会長ほか新幹線グループからの副賞金寄託により、「高速鉄道講演会」を開催。以後も毎年継続開催。
1967(昭和42)年 6月	名古屋支部(現 中部支部)を設置。以降2004(平成16)年まで、全国に計6支部を設置し、各地域で活動。欧州に海外鉄道技術交流調査団を派遣。(以後、概ね年1回実施)
1985(昭和60)年 5月	日本鉄道サイバネティクス協議会を当協会の特定部会として合併。
2005(平成17)年10月	自主調査研究を行う「総合安全調査研究会」を設置、活動開始。
2007(平成19)年 8月	創立60周年記念事業として、記念式典、論文募集・表彰、記念シンポジウムなどを実施。協会功績賞表彰制度を創設。
2008(平成20)年 3月	60周年記念図書「20年後の鉄道システム」が交通図書賞技術部門賞を受賞。
2009(平成21)年 5月	坂田浩一会長の遺贈金を活用し、従来のJREA賞に代わり「日本鉄道技術協会坂田記念賞」を創設、表彰対象範囲を当協会発行の技術情報誌、論文集に拡大。
2011(平成23)年 4月	政府の法人改革の流れに添い、一般社団法人に移行。
2013(平成25)年 5月	日本鉄道サイバネティクス協議会 創立50周年記念式典を開催
2015(平成27)年 3月	公益目的支出計画の実施が完了
2017(平成29)年 8月	協会創立70周年

4 主な事業

(1) 鉄道事業に資する技術の進歩改善に関する調査研究

鉄道の総合技術に関わる基礎的な調査研究や各分野にまたがる開発課題などを関係機関から受託し、学識経験者、諸研究所、関係会員各社などの協力を得て実施している。

(2) 鉄道の安全に関する調査研究

前項と同様に外部機関からの受託によるほか、自主調査研究として「総合安全調査研究会」を設置し、会員各社の参加と協力により安全に関する調査研究、情報交換、相互啓発などを実施している。

(3) 鉄道におけるサイバネティクス技術に関する調査研究及び規格の制定、管理

特定部会 日本鉄道サイバネティクス協議会活動を通して、鉄道サイバネティクスシンポジウムの開催、調査研究の実施、ICカード乗車券の規格の開発・維持、季刊の技術情報誌サイバネティクスの発行など幅広く活動している。

- (4) 鉄道技術に関する文献・資料の収集、整理、保管
- (5) 鉄道技術に関する研究報告書、技術情報誌、図書の刊行及び鉄道技術に関する知識の普及
技術情報誌は、月刊のJREA、季刊の英文誌 Japanese Railway Engineering、季刊のサイバネティクス誌の3つを発行し、国内外の最新の技術情報や動向及び鉄道のトータルシステムとしての技術、各分野にまたがる技術などの情報を重点に、会員にわかり易く提供している。さらに、鉄道サイバネシウム論文集、海外鉄道技術調査団報告書を発行している。
- (6) 鉄道技術者の表彰
毎年、協会活動に功績のあった個人を主体に功績賞の表彰を実施している。また、その年に掲載された優秀な論文を選定し、日本鉄道技術協会坂田記念賞の表彰を行っている。
- (7) 鉄道技術に関する講演会、見学会などの開催
これらの事業を合わせて平均月一回開催している。
- (8) 海外鉄道との技術交流の促進
海外鉄道技術交流調査団を派遣し、海外の最新の情報を直接調査している。また、季刊の英文誌 Japanese Railway Engineeringを発行し、最新の日本の鉄道技術情報を海外に発信している。
- (9) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業
鉄道の総合技術を担当する当協会の役割として、鉄道技術全般に関わる部外の各種活動に積極的に参加している。

5 会員の構成

- (1) 正会員…協会に入会した個人（約5,000名）
- (2) 賛助会員…協会の事業に賛同し賛助するために入会した団体（約420団体）
- (3) 特定部会会員…特定部会日本鉄道サイバネティクス協議会に入会した団体（約210団体）
- (4) 特別会員、名誉会員…協会の事業に協力のある学識経験者、団体、
協会の発展に特に功労があった個人など（若干名）

6 会員の特典

- (1) 正会員は、技術情報誌「JREA」の配布を受けるほか、協会主催の各種行事に優先的に参加することができる。
- (2) 賛助会員は、それぞれの希望により技術情報誌「JREA」又は英文誌「Japanese Railway Engineering」のいずれか一方、又は両者を組み合わせて、1口につき計2部の割合（ただし、最大各10部を限度とする。）で配布を受けるほか、賛助会員所属員は協会主催の各種行事に優先的に参加することができる。
- (3) 特定部会会員である日本鉄道サイバネティクス協議会（以下「協議会」という。）の会員は、協議会が発行する技術情報誌「サイバネティクス」及び調査報告書などの配布を受けるほか、協議会が主催する各種行事に参加することができる。
- (4) 会員は業務上の研究調査などを協会に依頼し、また参加することができる。

7 会 費

会員種別		入会金	年会費（4月より翌年3月迄）
日本鉄道技術協会（JREA）	正 会 員	1,000 円	年額 6,600 円（※1）
	賛 助 会 員	5,000 円	1 口につき年額 24,000 円
日本鉄道サイバネティクス協議会（※2）	特 定 部 会 会 員	50,000 円	A 会員 190,000 円 B 会員 380,000 円

※1 年度内入会者の会費は一ヶ月当たり550円の割合とする。

※2 鉄道事業者等及びその鉄道事業者等と密接な関連のある団体をA会員とし、その他の会員をB会員とする。

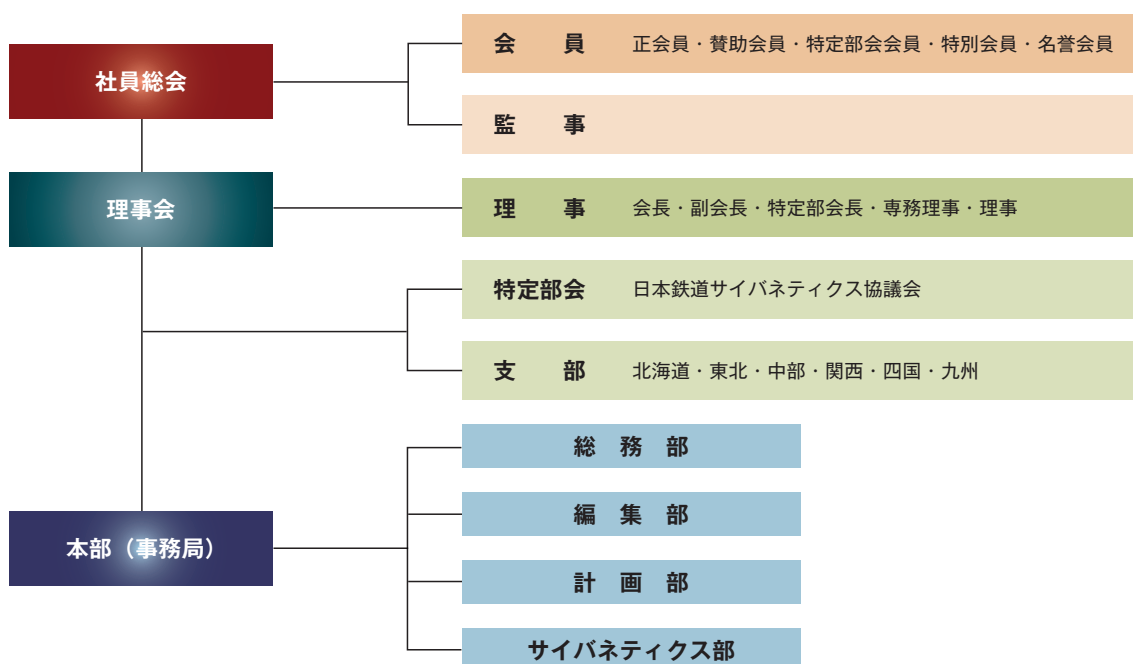
8 支部活動

協会は、北海道、東北、中部、関西、四国、九州に支部を設置している。各支部では、総会の開催を始めとして、講演会、見学会の開催など活発な活動を実施している。

9 歴代会長

初代会長 久保田 敬一	五代会長 関 四郎	九代会長 岩橋 洋一
二代会長 朝倉 希一	六代会長 好井 宏海	十代会長 原山 清己
三代会長 井上 隆根	七代会長 長濱 正雄	十一代会長 秋田 雄志
四代会長 島 秀雄	八代会長 坂田 浩一	十二代会長 林 康雄(現)

10 組織



連絡先 一般社団法人日本鉄道技術協会
Japan Railway Engineers' Association
(略称 JREA)

住 所 〒136-0071
東京都江東区亀戸 1-28-6 タニビル

電 話 一般 総務部 03-5626-2321
編集部 03-5626-2322
計画部 03-5626-2323
サイバネティクス部 03-5626-2324
J R 057-3904 (共通)

ファクス(共通) 一般 03-5626-2325
J R 057-3904

ホームページアドレス <https://www.jrea.or.jp>

